年報　タイ研究　No.11，2011　107－123.

【研究ノート】２

オノマトペにみるタイ語の音象徴
―― 声調に注目して ――

The Sound-Symbolic System of Thai Language: With a Focus on the Tones

隅　田　敦　子*
SUMIDA Atsuko

While no one may contest the Saussure's theory about arbitrariness in language, a number of recent researchers of cognitive linguistics have pointed out that an interesting relationship between sound and meaning exists in many languages. Certain sounds within words conjure up particular images in one's mind, which transcends customary relationships between words and their associated meanings. This phenomenon, called the Sound-Symbolism, indicates that sounds themselves occasionally convey their own symbolic meanings. In this context, the cluster of vocabulary which shows the existence of a systematic relationship between sounds and meanings are commonly known as "onomatopoeia", the mimetic words.

Whereas the Sound-Symbolism has been observed in many languages, few researches have been conducted for its relationship with Thai. A. Sumida (2008) formed the basis of the Sound-Symbolic system in Thai, with a particular focus on "kham-liang-siang", sound imitation words. However, no research has yet been conducted with regards to tones in Thai, which are of significant importance given the nature of Thai language using 5 different tones to convey various meanings.

This paper will analyze tones in Thai in the context of the Sound-Symbolism and conclude that some symbolic meanings also exist in the tones. The paper will particularly focus on the 4th and 5th tones of Thai, with a study of "kham-liang-saphaap", mimetic words.

１．認知言語学の中の音声記号

（1）音声記号の恣意性、非恣意性と音象徴 sound symbolism

私達人間は、ある一定の区切られた範囲の概念に、記号＝「言語による名称」を与え、頭の中にその記号と概念とを結ぶ経路を記憶・蓄積させておき必要に応じて複雑に組み合わせながらコミュニケーションを行っている。

その言語記号について、アメリカの構造言語学者たちが好んだ種類の定義に、「言語は、その言語社会の成員がお互いに協力し、影響を与え合うための、恣意的な音声記号の体系である」というものがあり［田中 1975：16］、恣意的な音声記号の体系であるとはつまり、言葉は聞き手にある情報を伝えるための単なる音声記号の組み合わせにすぎず、音声記号自体はそのものの指し示している対象のイメージや概念とは何の関係もないという意味である（ソシュールの言語の恣意性 arbitrariness の理論）。しかし、語を構成する音

*大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

声というもの自体が、時に象徴的な意味、つまり一般に想定されている語と意味の慣習的な関係を超える意味を表すことがあり、それを音象徴 sound symbolism と呼ぶ［田守 2002：134］という指摘を忘れてはならない。

音象徴とはつまり、一つ一つの音声形式自体が、言語による名称＝記号の持つ慣習的な意味とは別に、認知主体である人間に対して思い描かせる物音・声・状態・性質・感覚等の様々な可能性（【外に拡がる解放の音】【高い声】【丸く太って柔らかそうな様子】【スピード感】など）のことであり、その音象徴の存在を明らかにする代表例がオノマトペと呼ばれる語彙層の言葉である。何故ならばオノマトペとは、物音や声、そして事物の状態や多種多様な感覚を言語音によって模倣しようとした言葉であって、その聴覚印象と表される対象のイメージ・概念が直接的に結びついており、音声記号と意味とが顕著に有縁的な関係を持っている為である。認知言語学においては、音声は意味や概念とある一定の規則性を持って結びついているという考え方をし、オノマトペとはその音声と意味との有縁性を最もわかりやすく証明することのできる言葉なのである。

ただし、オノマトペを除く一般語彙においては、音象徴とは、あくまでも二次的なものであり、音象徴的意味は、語の慣習的な意味、つまり語彙的意味によって打ち消され、裏に隠れていなければならない［田守・スコウラップ 1997］。

(2) 音象徴に関してそれぞれの言語が持つ独自の特徴と通言語的共通点

オノマトペの場合、全く異なった言語間である音や状態を表すのに同じような音の要素が使われていること（音韻的共通性）がよく見受けられる。実際に田守により以下のような報告［田守 2002：151-178］がなされている。

- 日本語で、サ行で始まるオノマトペ、特に「さ」と「す」で始まるオトマトペは「滑らかさ」という概念と何らかの概念で関連していることが多く（さらさら、さくっ、すべすべ、すかっ、すやすや　など）、英語でも「滑らかさ」と関連している語に「s」ではじまる語が多い（slash（さっと切る）、slide（滑る）、spin（回る）、sashay（滑るように歩く）、scoot（駆け出す）など）。
- 「太っている」イメージを表す語に、日本語であれば、でっぷり、でぶっ、むちむち、ぽてっなどがあり、p、b、m のような唇子音が使われる。英語でも、chubby, fat, heavy, bloated のように唇子音が用いられ、またフィリピンのセブアノ語でも、katambok, tamnokon, hmsong, burabog のように唇子音が用いられることが多い。
- 日本語で頭子音 m で始まるオノマトペは、はっきりしない様子や不明瞭さを表すが、英語でも頭子音 m を用いると mumble（もぐもぐ言う）、murmur（つぶやく）、mum（口をつぐんだ）、mire（ぬかるみ）などのようにはっきりしない様子や不明瞭な様子を表すものが多い。

他にも、異なる言語間で多くの共通点が報告されている。それぞれの言語によって子音の数や母音の数の差や、声調の有無等、使用されている音の要素は様々であるのに加え、母語の文化的背景が異なっているにもかかわらず、そのような音声

的要素の違いや環境の違いを越えて現れてくる共通点の方に注目をすれば、それは同じような音声記号が通言語的に似通った概念を表すことができるということを意味し、私達人間が言語を越えて音声記号に対してある程度普遍的な共通の感覚を持っていることは充分に推論可能である。

複数の言語の音象徴性を相互に比較し、最終的には言語を超えた普遍的な感覚の部分を探り出すことが音象徴研究の大きな目標であるといえるが、その為には先ず、個々の言語の音声的特徴（例えばタイ語であれば、母音子音の数が共に多く、末尾子音というものがあり、声調までが存在すること等）が持つ音象徴性を詳細に研究していく必要があることから、本稿においてはタイ語の持つ音象徴性に焦点を当てている。

2．タイ語[1)]の特徴

(1) 音節

タイ語は単音節の語が多いのが特徴的で、全てが頭子音＋韻部（「頭子音＋母音」又は「頭子音＋母音＋末尾子音」）という形である。外来語などの場合、複音節の語もあるがその場合「頭子音＋母音」または「頭子音＋母音＋末尾子音」の連鎖の形になる［宮本 1996：1－3］。

頭子音、母音、末尾子音にはそれぞれ以下のような音[2)]がある。

(2) 頭子音・母音・末尾子音

1）頭子音

p- ph- b- m- w- f- t- th- d- n- s- l- r- c- ch- y- k- kh- ŋ- ʔ h-

タイ語の頭子音は上記の21種類である。

そして、それらを組み合わせた以下のような二重頭子音がある。

pl- pr- phl- phr- tr- thr- kl- kr- kw- khl- khr- khw-

2）母音

i ii e ee ɛ ɛɛ ɯ ɯɯ ə əə a aa u uu o oo ɔ ɔɔ

タイ語の母音は18種類（母音には長母音と短母音がある）あり、単母音を組み合わせた以下のような重母音がある。

ia iu ɯa ua ui eo eeo ɛo ɛɛo əəi oi ooi ɔi ɔɔi ai aai ao iao ɯai uai aao

3）末尾子音

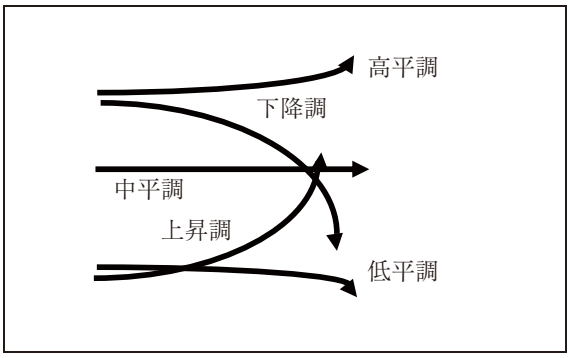
開音	-ŋ -n -m
閉音	-ʔ -k -t -p

末尾子音には、開音と閉音がある。

(3) 声調

タイ語において非常に重要な要素の一つに声調（tone）というものがある。声調というのは、冨田が『タイ日大辞典』［冨田 1997：23-24］で述べている通り、各音節の発音における決められた型の音楽的高さの推移である。タイ語では声調が５つ存在し、同じ母音及び子音の組み合わせであったとしても、声調が変わるだけで意味の全く異なる単語となる。真ん中の高さで平らに発音するのが第一声調（中平調）、一番下で低く抑えて平らに発音するのが第二声調（低平調）、上から下に落とすように発音するのが第三声調（下降調）、一番上の高さに押し上げ平らに発音するのが第四声調（高平調）、下から上へ上がっていくように発音するのが第五声調（上昇調）であり、音の高さの推移は相対的なものであり個人により

異なる［冨田 1997：23-24］。



第一声調：中平調　middle tone
第二声調：低平調　low tone
第三声調：下降調　falling tone
第四声調：高平調　high tone
第五声調：上昇調　rising tone

（筆者作成）

図－1

(4) タイ語の調音

1）子音の発音の仕方

表－1

Manner of articulation and voicing	Place of Articulation					
	bilabial	labio-dental	alveolar	palatal	velar	glottal
stops						
vl.unasp.	p		t	c	k	ʔ
vl.asp	ph		th	ch	kh	
vd.	b		d			
nasals	m		n		ŋ	
fricatives		f	s			h
semi-vowels	w			y		
lateral			l			
trill			r			

（Caranvilai Caruunroot 2001 “Phaasaasaat buang ton: Introduction to Linguistics”, Faculty of Arts, Silpakorn University を元に筆者が作成）

２）母音の発音の仕方

表−２

	หน้า (front)	กลาง (center)	หลัง (back)
สูง (high)	i ii	ɨ ɨɨ	u uu
กลาง (mid)	e ee	ə əə	o oo
ต่ำ (low)	ɛ ɛɛ	a aa	ɔ ɔɔ

３．タイ語の音象徴に関する先行研究

タイ語における音象徴の研究はまだ少ないが、隅田は『擬音語にみるタイ語の音象徴［隅田 2008］の中で、対象の音やイメージと直接のつながりを持つ（調音 articulation が指示物のイメージと近く、類像的 iconic であり［吉村 2004：118］、耳にするだけで脳の中にイメージが表象される）オノマトペという独特な言葉（中でも最も類像的である擬音語）に注目し、絵や映像・音声等を用いたアンケート調査を行うことによって、タイ語母語話者の音象徴感覚、「タイ語の音声記号（頭子音・母音・末尾子音・韻）と概念との対応パターン＝タイ語音スキーマ」を明らかにした。（参考資料①）

しかしながら、タイ語においてもう一つの重要な要素である声調に関する音象徴の研究は、まだなされていない。

４．研究目的・調査方法

(1) 研究目的

先行研究『擬音語にみるタイ語の音象徴』［隅田 2008］では、多くの擬音語に関するデータを収集することによって、頭子音、母音、末尾子音、韻部の持つ音象徴のパターンを明らかにしてきたが、本稿では特にタイ語の中の擬態語の一種に注目し、子音や母音以外にもう一つタイ語の中の重要な音の要素である『声調』においても、脳にある特定のイメージを表象させる「音象徴 sound symbolism」が存在することの証明を試みる。

今回注目するのは、形容詞や副詞の後ろについてその形容詞や副詞が表す意味の程度や勢いをより増大させる効果を持つ、ヴェトナム語やタイ語に見られる擬態語の内の一種である。宮本は『タイ語における色彩表現の意味的特徴』［宮本 2010］で、それらの語を、「単体でははっきりとした意味を持たないが形容詞・副詞に後続してそれらを修飾し強調する語」としている。また冨田は『ヴェトナム語の世界―ヴェトナム語基本文典』［冨田 2000］で、ヴェトナム語の中にも見られるこのような語を『強勢語』と呼んでいる。

例；ยุงกัดใช่ไหม　ตรงข้อโศกแดงแป๊ดเลย

蚊に刺されたんでしょ？肘のとこ、真っ赤だよ。

発音記号；yuŋ kàt châi mái troŋ khɔ̂ɔ sòok dɛɛŋ pɛ́ɛt ləəi.

単語の意味；蚊　噛む　正しい　疑問詞　丁度　～のところ　肘　赤い　（擬態語）とても

上記の文の แป๊ด pɛ́ɛt の部分がそれにあたり、赤みの程度が著しいことを表すのに効果的に用いられている。

擬態語の中でも特に、勢いを強め、程度の大きさや強さ、甚だしさを強調する為に用いられるこれらの種類の擬態語の声調には非常に偏りがあり、同じ声調ばかりが使われているという印象がある。そこで、子音・母音だけでなく、声調にも音象徴的意味が存在し、それによってそれぞれのオノマトペに於いて用いられる声調が決められて

おり、タイ語のオノマトペの持つ聴覚印象には声調も重要な意味を持つという仮説を立てた。

実際に、勢いを強めその形容詞・副詞の表す内容の程度の大きさ・強さ・甚だしさを強調するという同じ働きのあるオノマトペの一群に、バラバラの声調が用いられるのではなく、ある特定の声調のみが用いられるようであれば、それは声調もまた、人の脳にあるイメージを表象させる役割の一部を担っているということ、つまり声調にも音象徴的意味が存在するということの一つの論拠になり上記の仮説を証明することになることから、この種の擬態語に焦点を当てることにしたのである。この種の擬態語で使われている声調に実際に顕著な偏りが見られた場合、その声調はそのオノマトペがタイ語母語話者に勢いの強さや程度の甚だしさをイメージさせる要素の内の一つであるといえよう。

今回、本当にこれらの種類の擬態語の声調に偏りがあるのかを確認するために、タイ語母語話者のインフォーマントにアンケートを行うことにした。

(2) データ

1）調査方法

色、温度、味覚、形、などさまざまな意味を持つ47の形容詞・副詞を選出し、その形容詞・副詞が表す状態を強調する擬態語を書いてもらうアンケート調査を実施した。形容詞・副詞の選出の際には、小野『日本語オノマトペ辞典』［小野 2007：33-64］を参考にし、できる限り多様な意味領域の形容詞・副詞が網羅されるように工夫した。

当てはまる擬態語が複数ある場合は全て記入してもらい、違いがある場合はその違いの説明も求めた。

【回答例】ตัวอย่าง：黒い　→ ดำ（ปี๋）dam pǐi

ดำ（ปิ๊ดปี๋）dampítpǐi

ดำ（ปี๊ด）dam pʉ́t

“ดำปี๋”แปลง่ายๆว่า“ดำมาก”โดยมีนัยว่า“ดำมากและไม่สวยไม่น่าดูไม่น่าพอใจ”

訳；ดำปี๋ pǐi は、とても黒く、美しくない様子を表す。見るに堪えない、とても満足できぬ黒さ。

“ดำปิ๊ดปี๋”แปลง่ายๆว่า“ดำมากๆๆๆ”สรุปว่าดำยิ่งกว่าดำปี๋เสียอีกเพราะเน้นมากกว่า

訳；ดำปิ๊ดปี๋ dampítpǐi は、非常に黒く、ดำปี๋ dam pǐi よりもさらに黒さが強調されている。

“ดำปี๊ด”แปลง่ายๆว่า“ดำมาก”โดยอาจมีนัยว่า“ดำสนิท”หรือ“ดำเสมอกันทั้งหมดไม่กะดำกะด่าง”

訳；ดำปี๊ด dam pʉ́t はとても黒いという意味。全体が真っ黒く、黒さにムラのないイメージ。

2）インフォーマント

対象：タイ語母語話者の大学生及び大学院生（バンコク及びバンコク郊外の大学・大学院に在籍）

年齢：21歳～30歳

性別：女性5名、男性3名　　計8名

調査期間：2010年5月

地域、年齢、教育の有無及び程度等による、オノマトペに関する感覚の差異が存在することも考えられる為、本稿ではアンケートの対象とするインフォーマントをバンコク及びバンコク郊外の大学生及び大学院生に限定している。

またこれらの程度を強調する為に用いられる擬態語は、すでに辞書に採録されているオノマトペ、つまり慣用性が高く語彙化が進んだオノマトペである。このアンケート調査は、それら辞書に書かれている擬態語が実際に使用されているかどうかの確認の為のものであることから、インフォーマントの数を多くする必要性はなく、対象者を8名

と少数にしている。

5．結果と考察

(1) アンケート結果

8名のインフォーマントに対し、上記のアンケートを行った結果、47の各々の形容詞または副詞に、どのような強調の擬態語（強勢語）が後続するのか、以下の表のようにまとめることができる。

斜線／のところは該当する擬態語が無かった形容詞または副詞であり、これらの擬態語がすでに慣習的なオノマトペであり、インフォーマントの意見がほぼ全員一致していることから、どの単語を何名が回答したというような数の表記やグラフは割愛した。

複数の回答がありその違いについてもコメントが得られた語については、そのコメントを用いられた声調の欄に備考として記入した。

表-3

	【形容詞・副詞など】		【擬態語】 （強勢語）	【用いられている声調】
	タイ語	日本語訳		
1	ขาว khǎao	白い 白の	จั๊วะ cúa	第四声調
2	เขียว khǐao	緑色の	แปร๋น prɛ̌ɛn	第五声調
			แปร๋ prɛ̌ɛ	第五声調
			จี๋ cǐi	第五声調
			แปร๊ด prɛ́ɛt	第四声調
			อี๋ ǐi	第五声調
			ปี๋ pǐi	第五声調
			อื๋อ ɨ̌ɯ	第五声調
3	ดำ dam	黒い 黒の	ปี๋ pǐi	第五声調 ＊非常に黒く、美しくない様子を表す。見るに堪えない、とても満足できぬ黒さ。
			ปี๊ดปี๋ pítpǐi	第四声調＋第五声調 ＊ ปี๋やปี๊ดよりもさらに黒さを強調する場合
			ปี๊ด pít	第四声調 ＊とても黒いという意味。全体が真っ黒く、黒さにムラのないイメージ。
4	ส้ม sôm	オレンジ色の	แป๊ด pɛ́ɛt	第四声調
5	ชมพู chomphuu	ピンクの	แปร๋น prɛ̌ɛn	第五声調

6	แดง dɛɛŋ	赤い 赤の	แป๊ด pɛ́ɛt	第四声調 *非常に赤い、或いは赤さが非常に濃いということを表す
7			แจ๊ด cɛ́ɛt	第四声調 ＊แจ๋ よりは赤さの程度が強い
			แจ๋ cɛ̌ɛ	第五声調 ＊แจ๊ด よりは赤さの程度が弱い
8	เหลือง lŭaŋ	黄色い 黄色の	อ๋อย ɔ̌ɔi	第五声調
9	ใส săi	透き通っている、 透明な/の	แจ๋ว cɛ̌ɛo	第五声調
			กิ๊ก kík	第四声調
			ปิ๊ง píŋ	第四声調
10	ขุ่น khùn	濁っている	คั่ก คลั่ก khâk, khlâk	第三声調
11	เร็ว reo	速い	ปรื๋อ phrɯ̌ɯ	第五声調
			จี๋ cǐi	第五声調
12	ช้า cháa	遅い	อืดอาด ùɯt àat	第二声調
13	หวาน wǎan	甘い	จ๋อย cɔ̌i	第五声調 ＊料理、又は恋愛に関して甘いというときに用いる。 ＊どちらかというと、マイナスの意味で用いられることが多い。例えば「甘すぎるお菓子」などというときに用いられる。
			เจี๊ยบ cíap	第四声調 ＊料理や食べ物が非常に甘いというときに用いる。 ＊どちらかというと、プラスの意味で用いられることが多い。
			อ๋อย ɔ̌ɔi	第五声調 ＊主に恋愛に関して用いられる。
14	เผ็ด phèt	辛い	จี๋ cǐi	第五声調
15	เค็ม khem	塩辛い	ปี๋ pǐi	第五声調
16	เปรี้ยว prîao	すっぱい	จี๊ด cíit	第四声調
			เปรี๊ด príit	第四声調
17	ขม khǒm	苦い	ปี๋ pǐi	第五声調

18	แข็ง khěŋ	硬い	โป๊ก pók	第四声調 ＊เป๊กよりもさらに硬いイメージがある。サイズの大きなものに対して使う傾向がある。
			เป๊ก pék	第四声調 ＊โป๊กよりは硬さの程度が弱いイメージがある。あるいはโป๊กと比較するとサイズの小さなものに対して使う傾向がある。
			ปั๋ง pǎŋ	第五声調 ＊非常に硬いことを表し、例えば筋肉などが硬いという場合に用いる。「その男性の腕の筋肉は非常に硬い」等
19	นิ่ม nîm	柔らかい	ป๋อย pǒi	第五声調
20	เหมือนกัน mŭankan	同じ	เต๊ะ té?	第四声調
			เปี๊ยบ píap	第四声調
21	เท่ากัน thâokan	（数量等が） 同じ	เป๊ะ pé?	第四声調
22	ตรง troŋ	まっすぐ ぴったり	เป๊ะ pé?	第四声調
23	พอดี phɔɔdii	ちょうど	เปี๊ยะ pía?	第四声調
24	หนาว nǎao	寒い	งั่ก ŋâk	第三声調
25	ร้อน rɔ́ɔn	暑い	จี๋ cǐi	第五声調
26	เย็น yen	冷たい 涼しい	เจี๊ยบ cíap	第四声調
27	แคบ khɛ̂ɛp	狭い		
28	กว้าง kwâaŋ	広い		
29	ใหญ่ yài	大きい	เบ้อเริ่ม bɤ̂ərɤ̂əm	第三声調
30	เล็ก lék	小さい	จิ๊ด cít	第四声調
			กระจิ๊ดริด kracítrít	第四声調＋第四声調
31	ยาว yaao	長い	เฟื้อย fúai	第四声調
32	สั้น sân	短い	จู๋ cǔu	第五声調
			จุ๊ดจู๋ cútcǔu	第四声調＋第五声調

33	หนัก nàk	重い	อึ้ง ɨ̂ŋ	第三声調
34	เบา bao	軽い	หวิว wǐu	第五声調
			หยอง yɔ̌ŋ	第五声調
35	ผอม phɔ̌ɔm	痩せている		
36	อ้วน ûan	太っている		
37	สูง sǔuŋ	高い		
38	เตี้ย tîa	低い		
39	สวย sǔai	美しい		
40	ซวย suai	運が悪い		
41	สว่าง sawàaŋ	明るい		
42	มืด mɨ̂ɯt	暗い	ตื้อ tɨ̌ɯ	第五声調
			ตื๊ดตื้อ tɨ́ttɨ̌ɯ	第四声調＋第五声調
43	มัน man	油っぽい	แผลบ phlɛ̂ɛp	第三声調
44	ชัด chát	はっきりしている	แจ๋วแห๋ว cɛ̌ɛuwɛ̌ɛ	第五声調＋第五声調
			แจ๋ว cɛ̌ɛu	第五声調
45	(ราคา)ถูก (rakhaa)thùuk	値段が安い		
46	แพง phɛɛŋ	値段が高い		
47	(เดา)ถูก (dao)thùuk	正しい	เป๊ะ pé?	第四声調

（Caranvilai Caruunroot 2001 “Phaasaasaat buang ton : Introduction to Linguistics”, Faculty of Arts, Silpakorn University. を元に筆者が作成）

(2) アンケート結果考察

アンケートの結果（表-3）を見ると、まずこれらの形容詞や副詞等の表す内容を強調し程度を強める擬態語の場合、3［ดำ dam 黒い］にも、15［เค็ม khem 塩辛い］にも ปี๋ pìi を用いていたり、8［เหลือง lɨ̌aŋ 黄色い］にも อ๋อย ɔ̌ɔi を用いて13［หวาน wǎan 甘い］にも อ๋อย ɔ̌ɔi を用いていたりというように、同じ語が複数の形容詞を修飾

することが可能であり、類像性が低いと考えられる。そのことは、これらの語がすでに辞書に載っており語彙化が進んだ擬態語であることと矛盾しない。

そして、1．白い（ขาว khǎao）→真っ白い【白さを強調】（ขาวจั๊วะ khǎao cúa）［第四声調 high tone］、6．赤い（แดง dɛɛŋ）→真っ赤な【赤さを強調、赤色の濃さを強調】（แดงแป๊ด dɛɛŋ pɛ́ɛt）［第四声調　high tone］、（แดงแจ๊ด dɛɛŋ cɛ́ɛt）［第四声調　high tone］、（แดงแจ๋ dɛɛŋ cɛ̌ɛ）［第五声調　rising tone］、9．透明な・澄んだ（ใส sǎi）→非常に透明な・透き通った、澄み切った【透明度の高さを強調】（ใสแจ๋ว sǎi cɛ̌ɛo）［第五声調 rising tone］、18. 硬い（แข็ง khɛ̌ŋ）→非常に硬い、カッチカチの【硬さを強調】（แข็งโป๊ก khɛ̌ŋ pók）［第四声調 high tone］、（แข็งเป๊ก khɛ̌ŋ pék）［第四声調 high tone］、（แข็งปั๋ง khɛ̌ŋ pǎŋ）［第五声調 rising tone］、等のように形容詞や副詞等の勢いや程度を強める為の擬態語には、ほとんどの場合、第四声調（high tone）及び第五声調（rising tone）が用いられており、他の声調の擬態語は非常に少なかった。

第二声調（low tone）は、［ช้า cháa 遅い］という形容詞の時にのみ อืดอาด ùʉt àat という擬態語が用いられただけであり、第三声調（falling tone）は、［ขุ่น khùn 濁っている］という形容詞に คั่ก または คลั่ก khâk, khlâk が用いられ、［หนาว nǎao 寒い］という形容詞に งั่ก ŋâk、［ใหญ่ yài 大きい］という形容詞に เบ้อเริ่ม bâərâəm、［หนัก nàk 重い］という形容詞に อึ้ง ʉ̂ŋ が用いられたが5語のみに留まっている。第一声調（middle tone）の擬音語はひとつも登場していない。つまり、回答として得られた59語の擬態語の内、1語が第二声調、5語が第三声調であり、それら6語を除いた残りの53語は全て第四声調または第五声調であり、やはり顕著な偏りがあることが確認できた。

同じ、あるいは似た役割を持つ擬態語に、偏った声調ばかりが使われていることから、タイ語の声調にも、ある程度音象徴が存在しており、タイ語母語話者の脳にあるイメージや概念を抱かせる要素の一つであるということができるだろう。そして声調の中でも、特に第四声調と第五声調には、勢いの強さや程度の甚だしさを強調するような音象徴的意味があるということが分かる。

また、特に第四声調に関しては、タイ語の場合、下記の例のように形容詞を同じ声調のまま繰り返すと、意味が弱まるのに対し、最初を第四声調に変えて繰り返すと程度が強調されるようになることからも、それらのイメージを持つことが裏付けられるといえるだろう。

Ex. sǔai　　→綺麗
　sǔai sǔai　→綺麗な感じの、綺麗なほう
　súai sǔai　→非常に綺麗　（強調）

加えてアンケート結果には、3「ปี๊ดปี๋ pítpǐi」は、「ปี๋ pǐi」や「ปี๊ด pʉ́t」よりも更に程度が大きいイメージがある等、単なる第四あるいは第五声調の場合よりもその前にさらに第四声調の音節を付けたほうが、より程度が大きいと感じるという回答があった。このことから、前に第四声調を付け加えた形態は、第四声調のみ・あるいは第五声調のみの形態よりも、さらに強いイメージを表すのに効果的に用いられることがわかる。

6．まとめと今後の課題

(1) 声調に関して

今回、タイ語の擬態語の一種、形容詞や副詞を修飾し勢いを強める語（強勢語）に注目し、インフォーマントにそれぞれの形容詞・副詞につく語を記入してもらうアンケート調査を実施した。その結果、使用される声調に顕著な偏りがみとめられたことから、タイ語においては、子音（頭子音、末尾子音）や母音だけではなく、声調にもある程度の音象徴が存在するということの証拠を提示することができた。

ほとんどの形容詞・副詞の程度を強調するために用いられた第四声調や第五声調には、勢いの強さや程度の甚だしさを強調するような音象徴的意味があり、擬態語の中でもそれらのイメージを母語話者の脳に表象させる為に有効に用いられていることが推察できた。

第四・第五声調という二つの声調が持つ音象徴的意味について、他にどのようなイメージが存在するのか、また第四声調と第五声調の間にはどのような違いがあるのかについては、今後、さまざまな調査方法（『擬音語にみるタイ語の音象徴』［隅田 2008］にみられるような調査等）を用いて詳しく研究していきたい。そして、残る声調、第一声調（middle tone）、第二声調（low tone）、第三声調（falling tone）についてもこれ以降の分析の対象とし、他稿に期す。

また、今回の調査の段階では、擬態語を口語・文語・俗語等の言語カテゴリーに分けて考察することはしていないが、今後はそれらのカテゴリー区分にも注目し、さらに詳細かつ体系的な調査を行っていく。

さらに、タイ語のオノマトペ全体に関しても、未だ十分には検討されていないことから、今後は共時的な研究にとどまらず歴史を遡り語の起源を探るという通時的な研究もなされるべきであると考えている。タイ語のオノマトペの範疇化を図りつつ共時的・通時的に擬音語・擬態語を収集・整理し、そこからタイ語の音のそれぞれの要素が持つ音象徴的意味を探ってゆきたい。

注

1）タイ諸語（Tai Languages）は、北方系タイ諸語や南方系諸語等、広大な地域で話されており、これが広義のタイ語であるが、狭義のタイ語（Thai language）とはタイ国の国語の意で［冨田 1997：4］、本稿でいうタイ語とは後者の方の狭義的な意味のタイ語を指す。

2）本稿のタイ語の発音記号の表記は冨田の『タイ日大辞典』［冨田 1997］に依拠している。

参考資料　資料－1　タイ語の音象徴（頭子音、母音、末尾子音、韻）

一．頭子音について

頭子音	概念・イメージ
頭子音ก- k-	1．硬いものと硬いもの同士のぶつかり合う鋭い音を表す 2．音の大きさや低さとは関係がない 3．乾いた音、乾いた摩擦音を表す
頭子音ค- kh-	1．強く大きな衝突音を表す 2．乾いた音、乾いた摩擦音を表す 3．頭子音kよりも大きく強い音を表す

頭子音จ- c-	【「水」に関する音、水気を含む音を表すことが多い】 1．水と水（もの）が軽くぶつかり合う音を表す 2．唇の音や唾液の音を表す
頭子音ช-, ฉ- ch- について	1．スピード感や、抵抗が比較的少ないすばやい摩擦音を表す 2．油が勢いよくはじける音を表す
頭子音ซ- s- について	1．勢いの強い水の音を表す（大きな粒状や塊の水の音ではなく、勢いが強い為に激しく散らばるような水の音） 2．少し耳障りな音として認識されている
頭子音ต- t-	1．鈍く派手な衝突音を表す（金属同士などの鋭い衝突音ではなく、硬いものと柔らかいものとの衝突など、吸収されるような衝突音） 2．電子音などのような音を表す
頭子音ป- p-	1．鈍く派手な衝突音を表す（金属同士などの鋭い衝突音ではなく、硬いものと柔らかいものとの衝突など、ある程度音が吸収されるような衝突音） 2．弾けるようなまたは、破裂するような勢いの良い音を表す
頭子音ผ-, พ- ph-	1．ものがすばやく動いて空を切ることによって、その結果何らかの音が出る場合に用いる 2．頭子音pよりも軽快で軽い音を表す
頭子音ฟ- f-	1．空を切る音、物の収縮・膨張に伴うの空気の移動の音等、空気に関係のある音を表す 2．スピード感を表す 3．頭子音phよりも空気の勢いが強く、頭子音wよりは弱い
頭子音ว- w-	1．空気に関係のある音を表す 2．頭子音 ph や頭子音fよりも勢いの強い空気の音を表す
頭子音ฮ-, ห- h-	1．息の音など、空気に関係のある音を表す 2．低く地味な音を表す
二重頭子音について	音が複雑に混じり合っている様子を表す

二．韻（母音＋末尾子音）について

韻	概念・イメージ
-ัง -aŋ	1．外に広がる開放的な音が、響く様子を表す 2．比較的軽い音を表す
-ับ -ap	1．ある程度柔らかみのある物同士がぶつかり、外へと拡がる解放の音を表す 2．繰り返すと、軽快でリズムのよい開放的な音を表す
-าบ -aap	1．ある程度柔らかみのある物同士がぶつかり、外へと拡がる解放の音を表す 2．apよりも長く続く音、または派手で大きい音を表す
-ิง -iŋ	高く響く音を表す
-ีง -iiŋ	1．高く響く音を表す 2．iŋよりも長い、または派手で大きい音を表す

ิด -it	高くて途中でぷっつりと途絶える音を表す
ีด -iit	1．高くて途中でぷっつりと途絶える音を表す 2．itよりも長い、または派手で大きい音を表す
ิน -in	徐々に小さくなって消えていく高い音を表す
ีน -iin	1．徐々に小さくなって消えていく音を表す 2．inよりも長い、または派手で大きい音を表す
เี-ยด -iat	1．複雑で途中で調子の変る音が続いた後に、ぷっつり途切れる様子を表す 2．比較的、か細く高い音を表す
ึก -ɯk	硬いもの同士がぶつかりぐっと詰まって内にこもるような内包性の音を表す
ึง -ɯŋ	鈍く詰まって響く音を表す
ึบ -ɯp	重たくて詰まったような音を表す
ูด -uut	筒状のものを介して出る音で、途中でぷっつり切れる音を表す
ุม -um	1．大きくて派手だが内にこもる音、内に響いてから消えていくような音を表す 2．激しい衝突などによって物と物が食い込んでいくような音を表す
ูม -uum	1．大きくて派手だが内にこもる音、内に響いてから消えていくような音を表す 2．激しい衝突などによって物と物が食い込んでいくような音を表す
ุวบ -uap	唇で何かを吸い上げるときの音を表す
เ-ง -eŋ	ガラスのような硬くて繊細なものが、粉々に砕けるような音を表す
แ-ก -ɛk	1．硬いもの同士がぶつかる音を表す（硬いもの同士といってもそれほど重みのある鋭い音ではなく、比較的軽い音を表す 2．内にこもらずに外に向かう開放的な音を表す
โ-ง -ooŋ	大きな音が、大きい器の中で長く響くような内包性の音を表す
-อก -ɔk	1．硬いものと硬いもの同士がぶつかる音や硬いものが折れるような歯切れの良い音を表す 2．少し内にこもるような内包性の音を表す
韻の部分が長母音のみの場合 （末尾子音が付かない場合）	音が終わらないで、長く続く時に用いられる

三．母音について

母音	概念・イメージ
母音 -า -aa	1．外に広がる解放の音を表す 2．水などが、外に向かって飛び散る様子や、下に向かって広がる様子などを表すことができる
母音 -ี -ii	高い音を表す
母音ิว -iu	渦巻くようすを表す

母音 ◌ึ ◌ʉ	1．鈍く詰まって内にこもる音を表す 2．物と物とが食い込まずに早いスピードでスライドすることによって起きる摩擦の音に使われることがある。硬いもの同士がぴったりとくっついている状態での摩擦を表す
母音 ◌ึ ◌ʉʉ	1．鈍く詰まって内にこもる音を表す 2．物と物とが食い込まずに早いスピードでスライドすることによって起きる摩擦の音に使われることがある。硬いもの同士がぴったりとくっついている状態での摩擦を表す 3．母音ʉよりも、スピードが遅く豪快で派手な動きから生じる長く大きく派手な音を表す（母音ʉの方がリズミカル）
母音 ◌ู ◌uu	1．比較的強い音を表す 2．筒状の、あるいは管のような丸い空洞を何かがまっすぐに通りぬける音、物質が広がらずにまっすぐに移動する様子を表すことができる
母音 แ-ะ ◌ɛ	1．ぺったりとした音、水などがぺっちゃっとつぶれて拡がるような音などを表すことができる 2．比較的勢いのある派手な音を表す
母音 แ- ◌ɛɛ	1．直線的な動きを表す（横長あるいは縦長の動き、または範囲が横長あるいは 縦長である様子を表す） 2．比較的長く、派手な音を表す
母音 โ-ะ ◌o	音が大きく深く低いことを表す
母音 ◌อ ◌ɔ	まるみや重み、または空洞の中でこもったような内包性の音を表す
母音 ◌ุ ◌u と母音 ◌ึ ◌ʉ について（比較）	母音 ◌ุ u はぐいっと食い込むイメージを表す ⇔母音 ◌ึ ◌ʉ は食い込まずにぐっと詰まって停止するイメージを表す
◌ึ ◌ึ ◌u ◌uu ◌ʉ ◌ʉʉ ◌ɔ ◌ɔɔ と、母音 แ-ะ ◌ั ◌า เ-ีย เ-ัวะ ◌ɛɛ ◌a ◌aa ◌ia ◌ua について（比較）	母音 ◌ุ ◌ู ◌ึ ◌ึ u uu ʉ ʉʉ ɔ は内にこもる内包性の音を表す ⇔母音 แ- ◌ั ◌า เ-ีย เ-ัวะ a aa ia ua ɛ ɛɛ は外へと拡がる解放の音を表す
長母音について	1．長母音は、短母音よりも、派手で大きい音を表す。程度が大きいことを表現表現できる 2．途切れないで続く一連の長い音を表す

四．末尾子音について

末尾子音	概念・イメージ
末尾子音 ◌ก ◌k	1．硬いもの同士のぶつかる比較的鋭い音に使われる 2．響かずに詰まった音を表す
末尾子音 ◌ง ◌ŋ	音の余韻、響きを表す
末尾子音 ◌ด ◌t	音がしばらく続いてすっときっぱり途切れる様子を表す、 余韻の残らない音を表す、途中でぷっつり途絶える音を表す
末尾子音 ◌น ◌n	急に途切れるのではなく、音が少しずつ小さくなって消える様子を表す

末尾子音-บ -p	1．ある程度やわらかいものとやわらかいもの、あるいはやわらかいものと硬いものがぶつかる音を表す 2．“ぐっと詰まって停止するようなイメージ”あるいは、“音の拡がりが遮断され内にこもるようなイメージ”を思い起こさせる 3．唇に関する音を表すことができる 4．上と下で挟んで音を出す道具の音を表すことができる
末尾子音-ม -m	1．比較的派手で大きな音が轟くような余韻を表すのに使われることが多い 2．水などに包み込まれるようなイメージを表すことができる 3．激しい衝突により、物と物とが食い込んでいくようなイメージを表すことができる

五．その他の規則性

その他	概念・イメージ
複音節　－同じ頭子音と末尾子音の繰り返しで母音のみを変えたもの－	1．対象の量の多さを表すことがある 2．多彩な音の繰り返しを表すことができる

参考文献

日本語・英語（アルファベット順）

天沼寧編 1974『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版。

荒田真実子・今井むつみ・奥田次郎・岡田浩之、松田哲也 2009「擬態語は前言語（プロト・ランゲージ）か？―脳機能イメージング研究からの示唆―」『日本認知言語学会論文集』第 9 巻、日本認知言語学会。

浅野鶴子・金田一春彦 1978『擬音語・擬態語辞典』角川書店。

チョムスキー、ノーム 2004『言語と認知　―心的実在としての言語―』加藤泰彦・加藤ナツ子訳、秀英書房。

Hamano, Shoko 1998 *The Sound-Symbolic System of Japanese,* くろしお出版。

井上加寿子 2009「新造オノマトペの創発とその動機付けに関する考察」、『日本認知言語学会論文集』第 9 巻、日本認知言語学会。

筧寿雄・田守育啓 1993『オノマトピア・擬音、擬態語の楽園』勁草書房。

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健 2004『言語学』第 2 版、東京大学出版会。

金素姫 2003「日本語、韓国語に見られる擬音語・擬態語の対照研究」、『日本語・日本文化研修プログラム　研修レポート集』第 18 期（2002 年 10 月～ 2003 年 9 月）、広島大学国際センター。

小嶋孝三郎 1972『現代文学とオノマトペ』桜楓社。

近藤利恵 2003「オノマトペ〈音韻・形態・韻律〉」『名古屋経済大学経営学部開設記念論集』名古屋経済大学。

町田健 2004『ソシュールと言語学―コトバはなぜ通じるのか―』講談社。

丸山圭三郎 1983『ソシュールを読む』岩波書店。

――― 1996『ソシュール小事典』大修館書店。

宮本マラシー 1996『サワッディー　日常生活の中のタイ語会話』国際語学社。

――― 1997『ภาษาไทย タイ語の言語表現』大阪外国語大学学術研究双書17、大阪外国語大学。

――― 2003『タイ語表現法』大阪外国語大学。

――― 2010「タイ語における色彩表現の意味的特徴」、『大阪大学世界言語研究センター論集』2 号、大阪大学。

小野正弘 2007『日本語オノマトペ辞典』小学館。

パンパニー・スントーンムニー 2003「日タイ両語における擬音語・擬態語について」、『日本語・日本文化研修プログラム　研修レポート集』第 18 期（2002 年 10 月～ 2003 年 9 月）、広島大学国際センター。

柴谷方良・影山太郎・田守育啓 1981『言語の構造―理論と分析―音声・音韻篇』くろしお出版。
荘司和子 1997『ゼロから始めるタイ語　30日間会話入門』語研。
隅田敦子 2008 『擬音語にみるタイ語の音象徴』修士論文、大阪外国語大学。
鈴木孝夫 1987『私の言語学』大修館書店。
田守育啓 2002『〈もっと知りたい！日本語〉オノマトペ・擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店。
田守育哲・スコウラップ、ローレンス 1999『オノマトペ―形態と意味―』日英語対照研究シリーズ（6)、くろしお出版。
田中晴美編 1975『言語学入門』大修館書店。
冨田健次 2000『ヴェトナム語の世界―ヴェトナム語基本文典―』大学書林。
冨田竹二郎 1997『タイ日大辞典』めこん。
有働眞理子・高野美由紀 2009「オノマトペ的表現と対話能力発達の関わりについて」、『日本認知言語学会論文集』第 9 巻、日本認知言語学会。
吉村公宏 1995『認知意味論の方法―経験と動機の言語学―』人文書院。
――― 2004『はじめての認知言語学』研究社。
サディグル、エルドス 2009「日本語とカザフ語のオノマトペの対照研究―擬態語の語末の撥音『N』を中心に―」『日本認知言語学会論文集』第 9 巻、日本認知言語学会。

タイ語

จรัลวิไล จรูญโรจน์ 2001 “ภาษาศาสตร์เบื้องต้น Introduction to Linguistics” คณะอักษรศาสตร์ มหาวิทยาลัยศิลปากร. (Caranvilai Caruunroot 2001 “Phaasaasaat buang ton : Introduction to Linguistics” Faculty of Arts, Silpakorn University.)

นวววรรณ พันธุเมธา 1977 “การใช้ภาษา”, บริษัทการพิมพ์สตรีสาร จำกัด, (Navavan Bandhumedha 1977 “Kaan chai phasaa Thai” borisatkaanphim satriisaan camkat,.)

พุทธชาติ ธ.โปธิบาล 1997 “ เสียงและระบบเสียง: ภาษาไทย” มหาวิทยาลัยสงขลานครินทร์ ปัตตานี. (Phutthachaat tho. Poothibaan 1997 “Siang le rabop siang : phasaa Thai”, Songkhlaanakharin University Pattanii.)